

2009年度(2010年3月期)

決算説明会



株式会社エージーピー

2010年5月18日

丸ビルコンファレンススクエア「Room2」

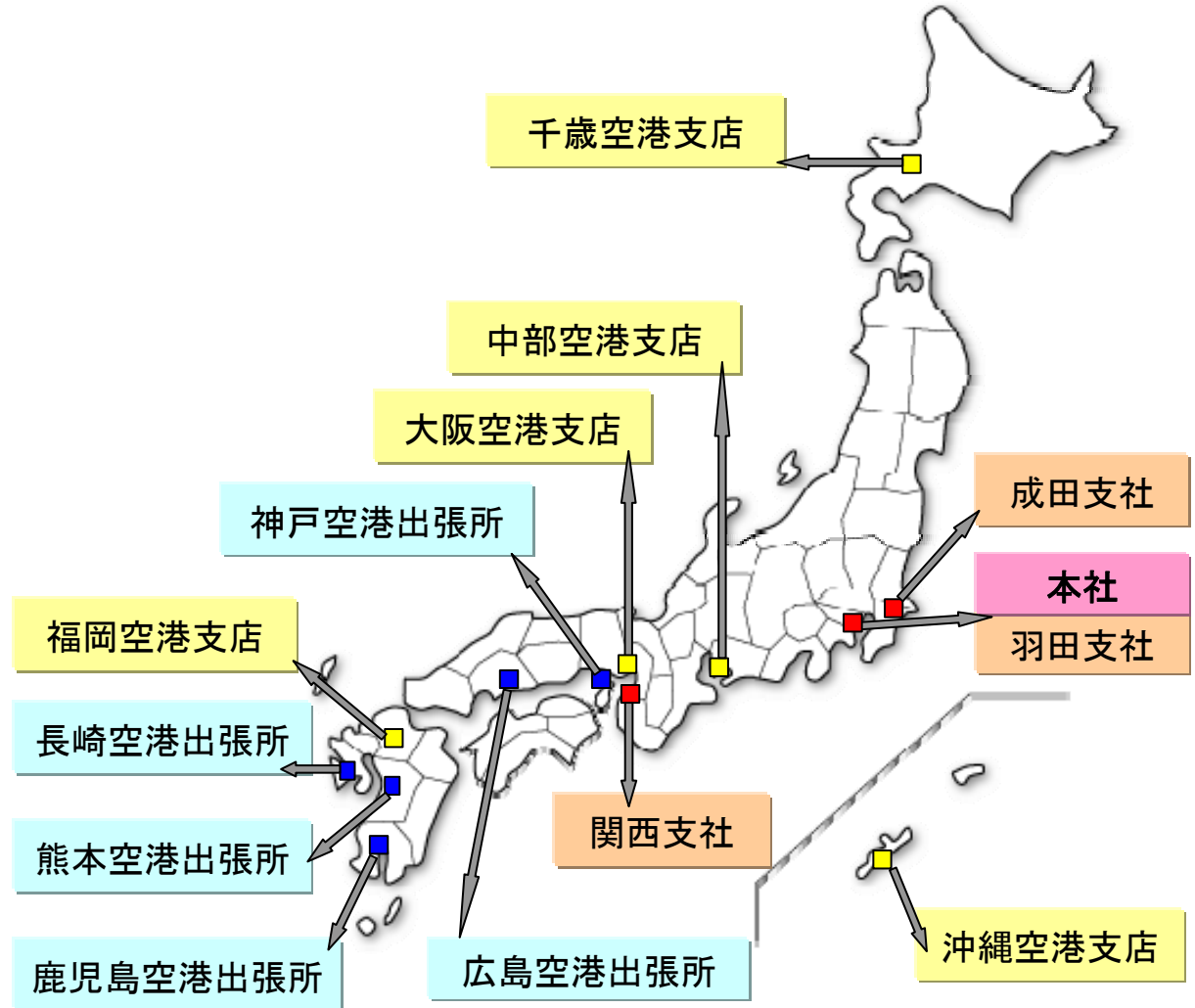
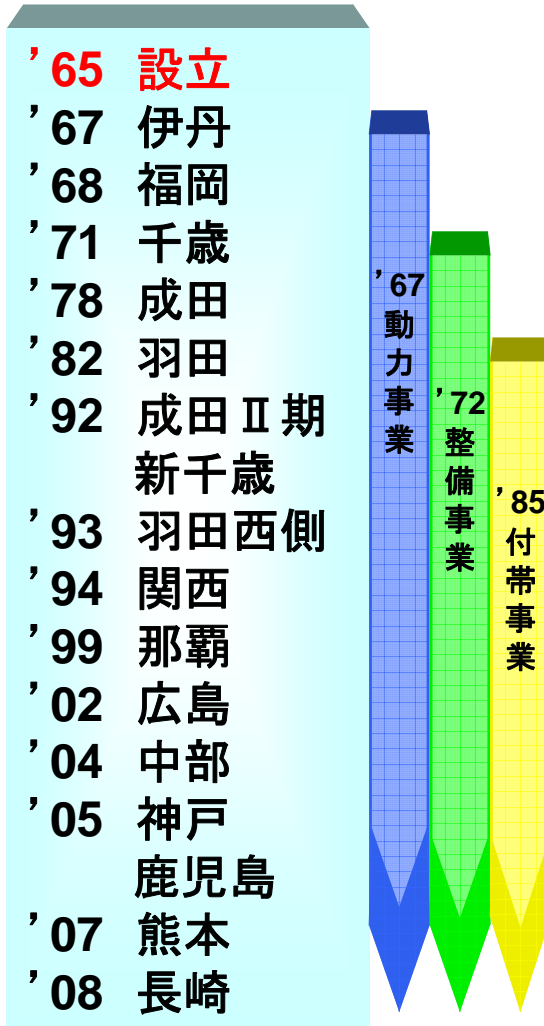
## 当社事業の概要

経営環境

2010年3月期 業績報告(連結)

2011年3月期 通期業績見通し(連結)

# 当社発展の軌跡



# 当社の事業概要

## 動力事業



GPU(電力供給)



ACU(エアコン供給)

## 整備事業



手荷物搬送設備(BHS)



旅客搭乗橋設備(PBB)



PBBタイヤガード開発

## 付帯事業

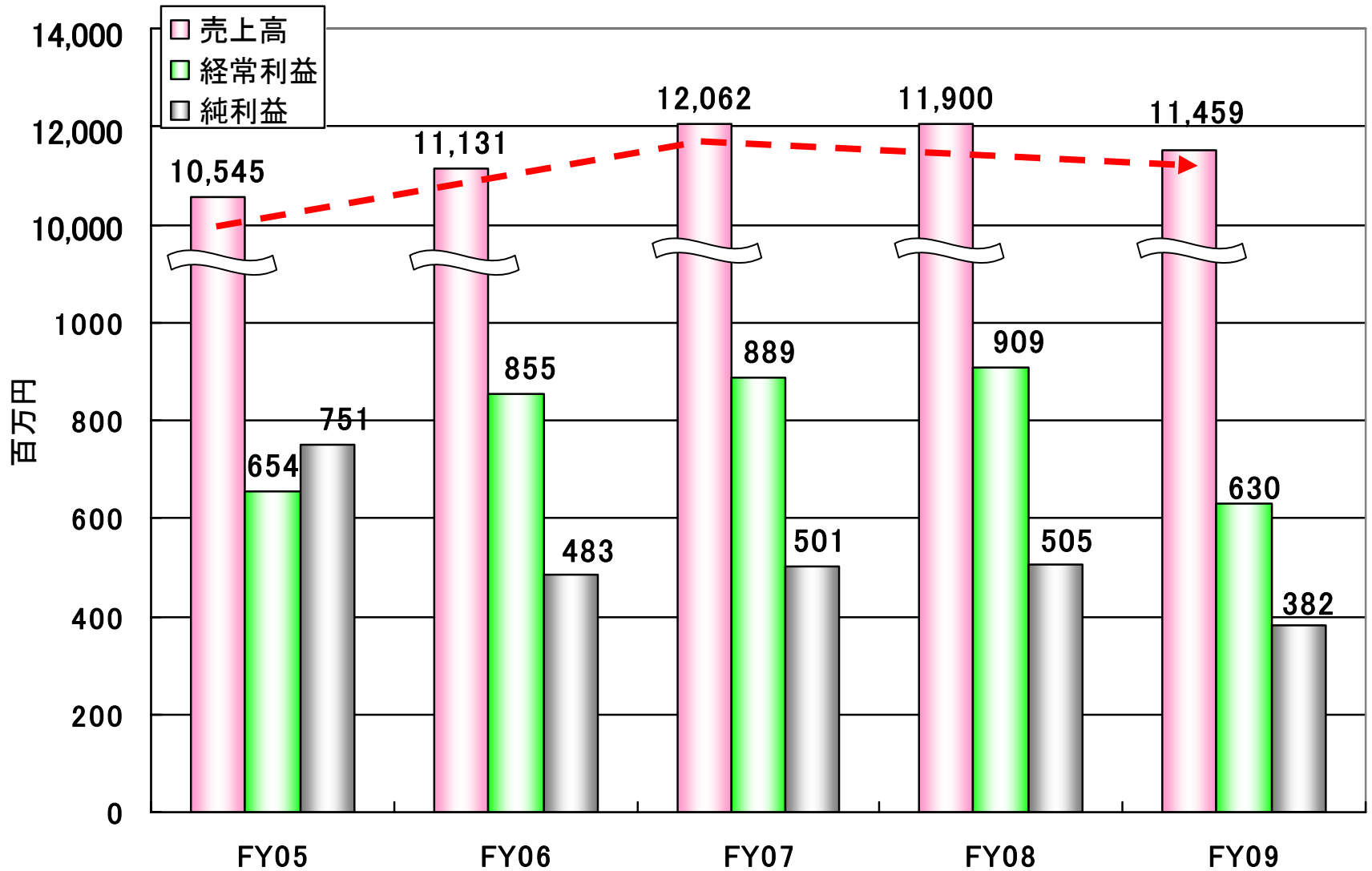


IH加熱カート



ブレーキクーリングカート

# 業績の推移(連結)



当社事業の概要

経営環境

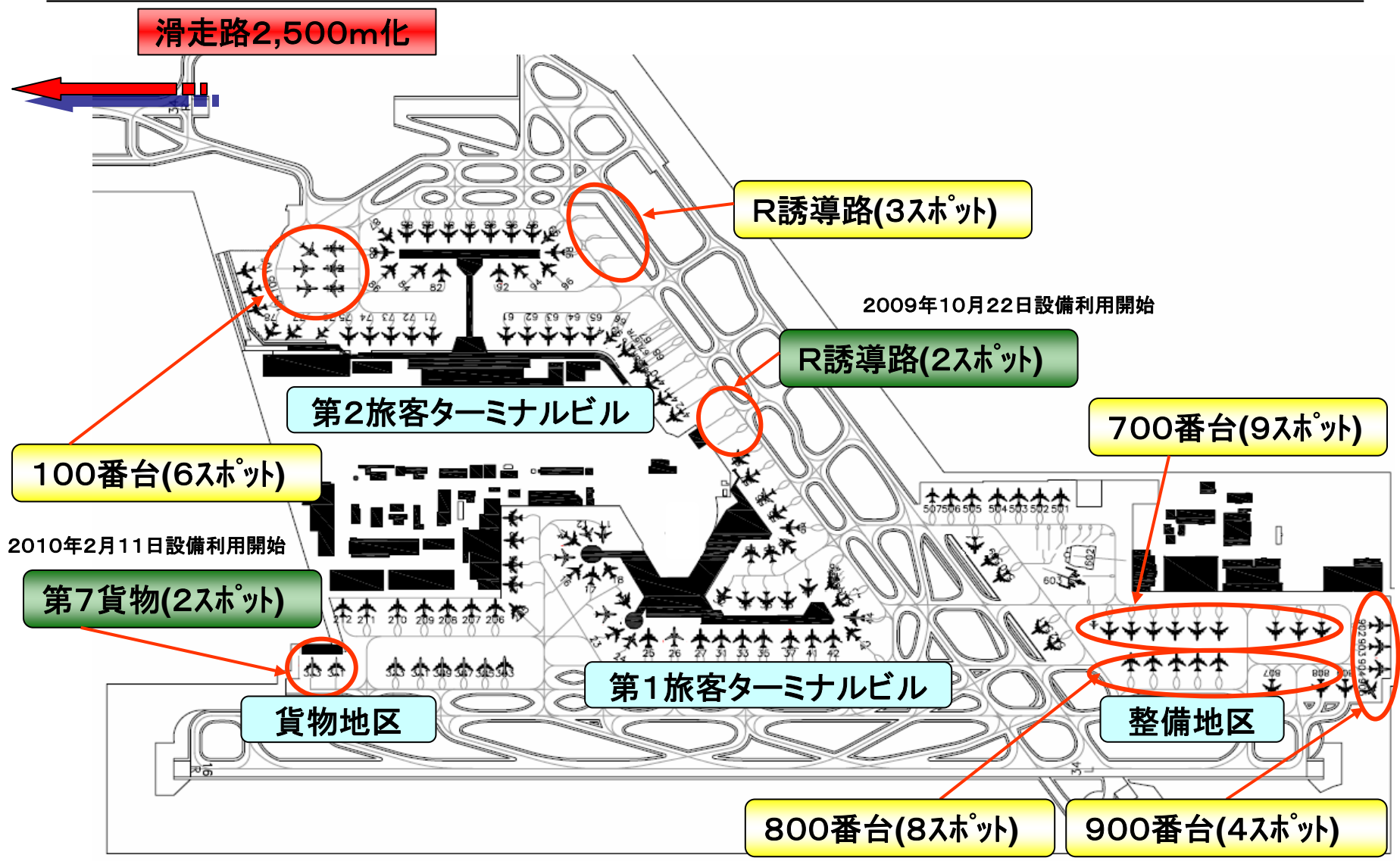
2010年3月期 業績報告(連結)

2011年3月期 通期業績見通し(連結)

# 動力事業① 概況と今後の取組み



# 動力事業② 成田空港拡張図



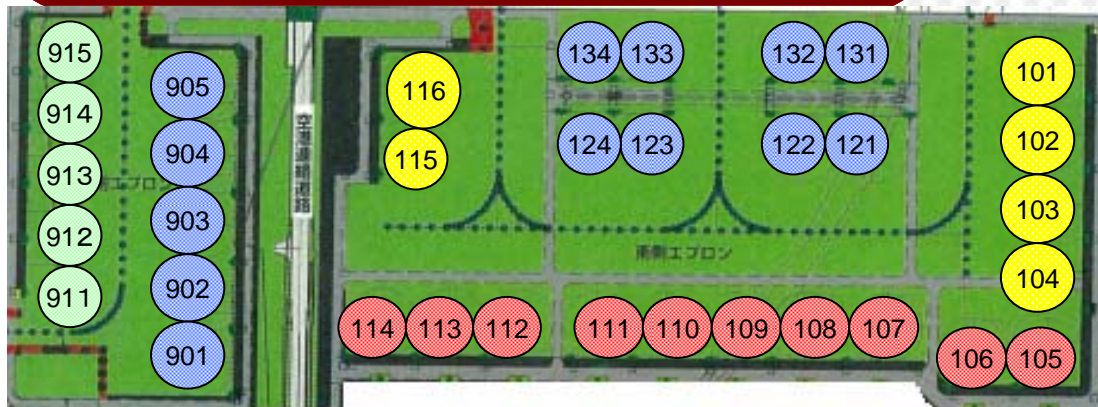
# 動力事業③ 羽田空港再拡張図

## 新国際線地区 (29スポット)

- 電気・エアコン設備設置  
ターミナルビルに隣接する10スポット
- 電気設備設置  
貨物地区・駐機地区の6スポット
- 埋設管設置  
駐機地区の13スポット



## 新国際線エプロン詳細 2010年10月供用開始



東京国際空港WEBサイトより

# 動力事業④ 環境への貢献

## GPUを使用したことによる環境に対するメリット

### 燃料の削減

(2008年度実績)

- ・B777-200で年間約8,066往復相当  
(14.8万キロリットル)の燃料を削減

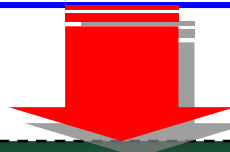
### CO<sub>2</sub>の削減

(2008年度実績)

- ・東京ドーム 145杯相当  
(年間35.1万トン)のCO<sub>2</sub>を削減

### 騒音の低減

- ・APUの騒音を抑え、  
空港周辺地域との共生



エコエアポート化へ貢献

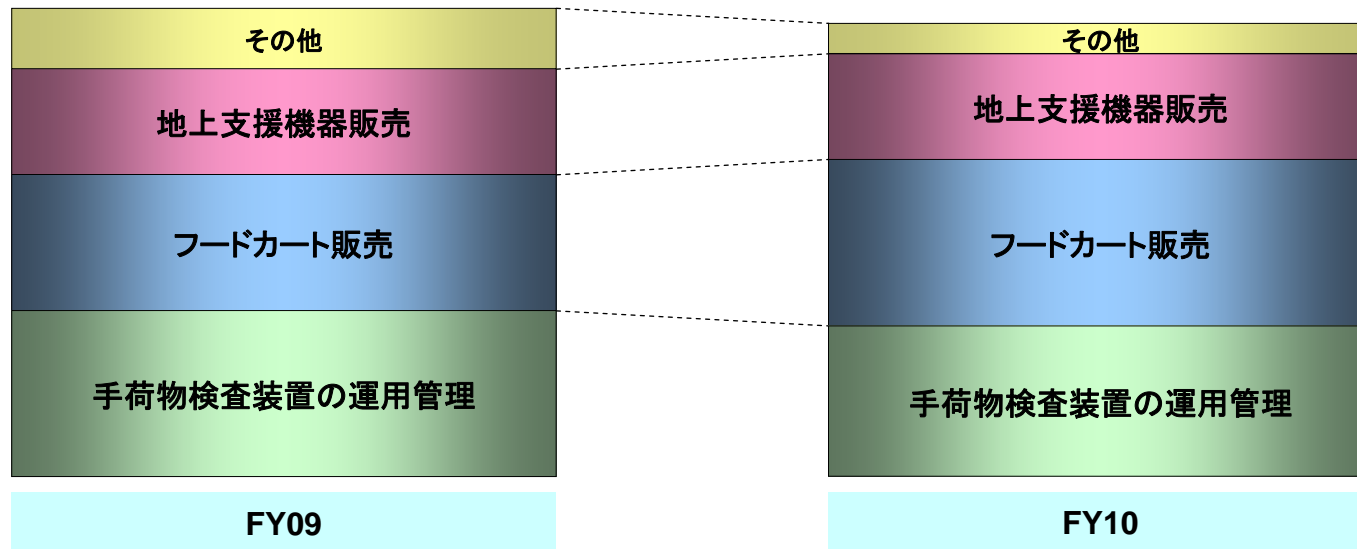
# 整備事業の概況と今後の取組み

顧客企業の経費節減施策による基本契約料金の更なる値下げや、施設・設備類の更新・修繕作業の縮減が予想される。

- 長年の技術力・ノウハウと24時間体制の強みを生かした積極的な提案型営業を展開し、受託業務の拡大を図る。
- 得意とする物流設備の保守管理業務分野で、物流システムメーカー等との連携を強化し、空港内外施設での受託拡大を目指す。
- 厳しい経営環境に対応したコスト競争力の強化を図る。

- 千歳空港の新国際線BHS・EDS保守・運用管理業務受託の拡大
- 羽田空港の沖合地区施設関連保守管理業務の全面受託
- 関西空港の国内線BHSインライン化供用開始による保守設備拡大
- 地方空港のBHS改修工事の受託拡大
- 物流システムメーカー等からの保守管理業務受託の拡大

# 付帯事業の概況と今後の取組み



## 今後の取組み

- フードカート事業については、顧客の要望に沿った新商品の開発、新規・買替需要を着実に捉えた営業を推進しつつ、販売体制を更に効率化する。
- 空港内外での手荷物検査装置等の更新に伴う設置工事・保守の受託拡大を図る。
- 航空機地上支援機器販売については、種類の絞込みによる効率的な販売を推進する。

## 中期事業計画

当社グループでは、中長期の経営戦略策定にあたり、期間を3年とした中期事業計画を毎年更新するローリング方式を採用し、每期決算発表時に新たな中期事業計画を公表してまいりました。

しかしながら、次期の中期事業計画につきましては、現時点では成田・羽田両空港の容量拡大に伴う発着便数や航空機の機材計画の予測が困難であるため、2010年度の適切な時期に策定することとし、成案を得次第速やかに開示致します。

当社事業の概要

経営環境

2010年3月期 業績報告(連結)

2011年3月期 通期業績見通し(連結)

# 2010年3月期 業績

(単位:百万円)

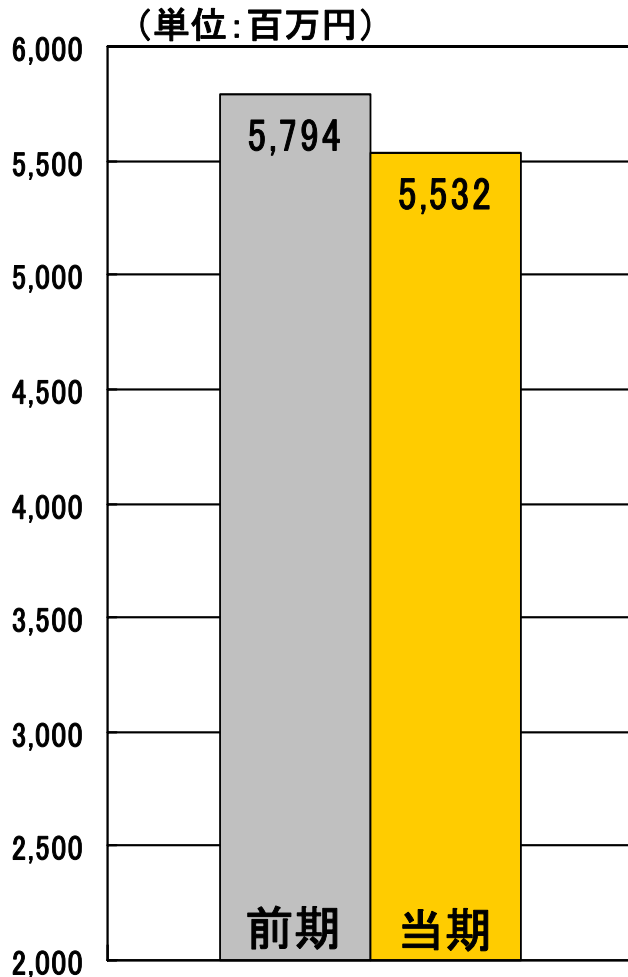
	前期実績	当期実績	対前期比 増減	
売上高	11,900	11,459	△441	96.3%
売上総利益	1,702	1,444	△258	84.8%
販管費	742	756	14	
営業利益	960	687	△273	71.6%
営業外損益	▲51	▲57	△6	
経常利益	909	630	△279	69.3%
特別損益	▲40	▲8	32	
税引前当期利益	868	621	△246	
当期純利益	505	382	△122	75.8%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

# 売上高 ① 動力事業

5,532百万円

前期比  $\Delta 261$  (95.5%)



## <主な増減要因>

- ① 航空機の小型化
- ② 路線の休止・減便
- ③ 福岡空港での冷暖房車配備による供給増
- ④ 長崎空港の供用開始による増

## <支店別>

関空	$\Delta 138$
羽田	$\Delta 81$
那覇	$\Delta 14$
広島	$\Delta 10$
福岡	+11
長崎	+6

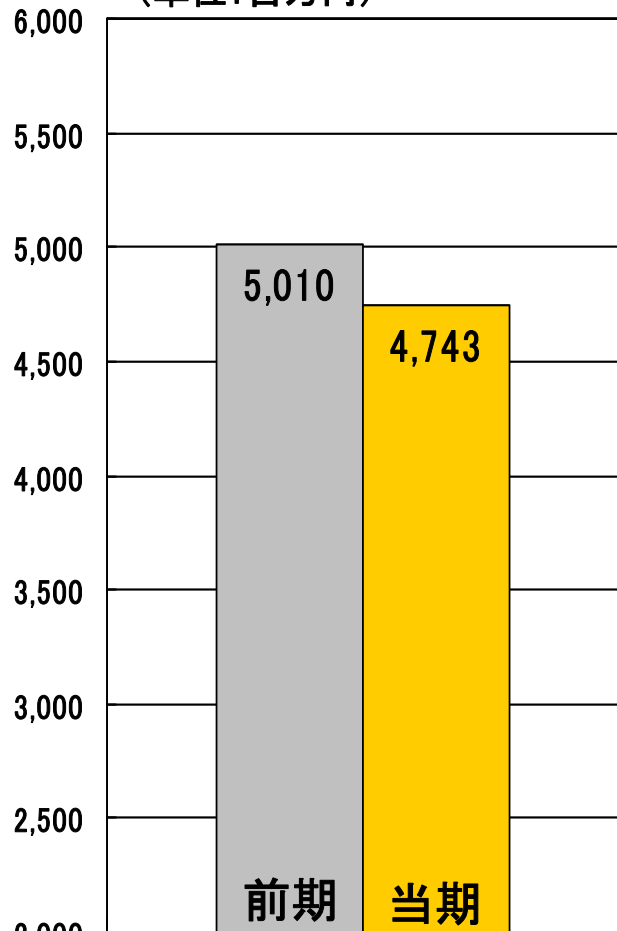
(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

# 売上高 ② 整備事業

4,743百万円

前期比  $\Delta 307$  (93.9%)

(単位:百万円)



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

## <主な増減要因>

(増加)

関西 +64 BHS補修工事の増

(減少)

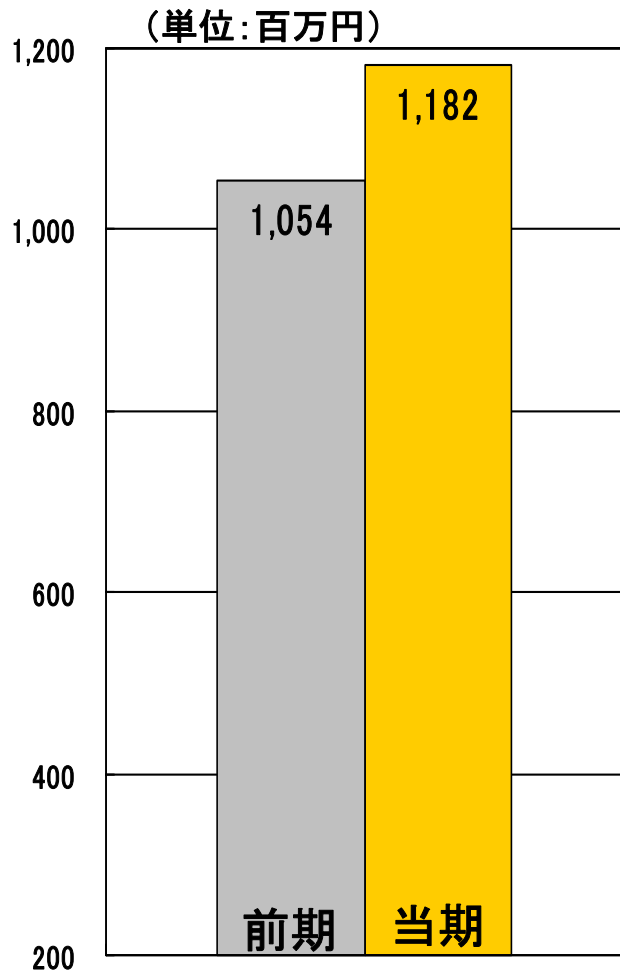
成田  
関空  
羽田 }  $\Delta 154$  施設管理業務基本契約  
料金の減

成田  $\Delta 138$  施設・設備類の更新・  
修繕作業の先送り

# 売上高 ③ 付帯事業

1,182百万円

前期比 127 (112.1%)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## <主な増減要因>

### (増加)

本社	+180	フードカートの販売増
空港外	+19	物流システム新築工事への 技術者派遣

### (減少)

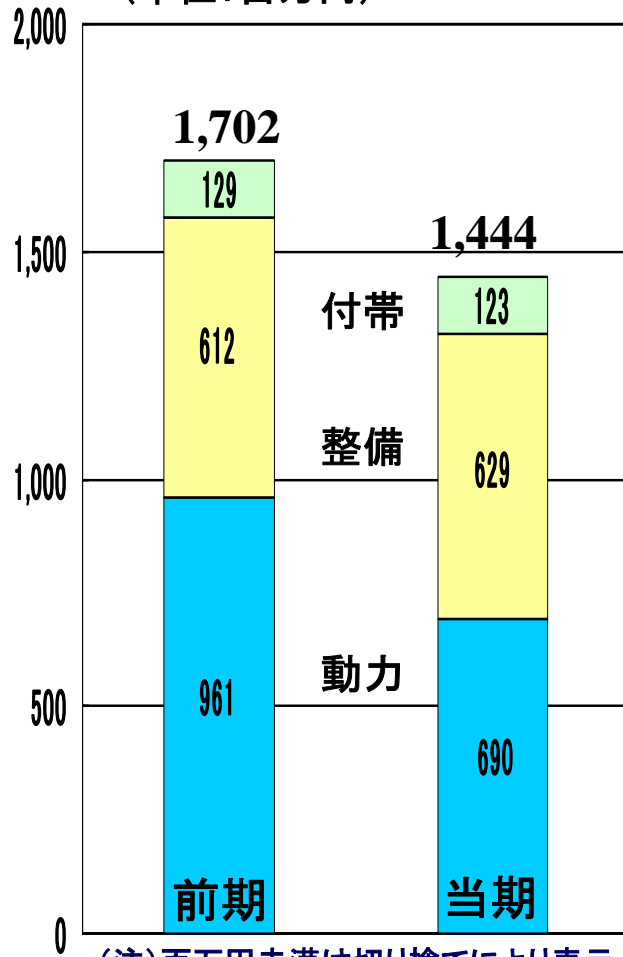
成田	△45	保安装置移設作業等の減
----	-----	-------------

# 売上総利益

1,444百万円

前期比  $\Delta 258$  (84.8%)

(単位:百万円)



## <セグメント別 主な増減要因>

動力事業 690百万円 (前期比  $\Delta 270$ )

- ・原材料費の減  $\Delta 117$
- ・整備維持費の増  $+111$

整備事業 629百万円 (前期比  $+17$ )

- ・労務費の減  $\Delta 220$
- ・材料費・外注費の減  $\Delta 120$

付帯事業 123百万円 (前期比  $\Delta 6$ )

- ・材料費・外注費の増  $+78$
- ・棚卸関連損失の増  $+66$

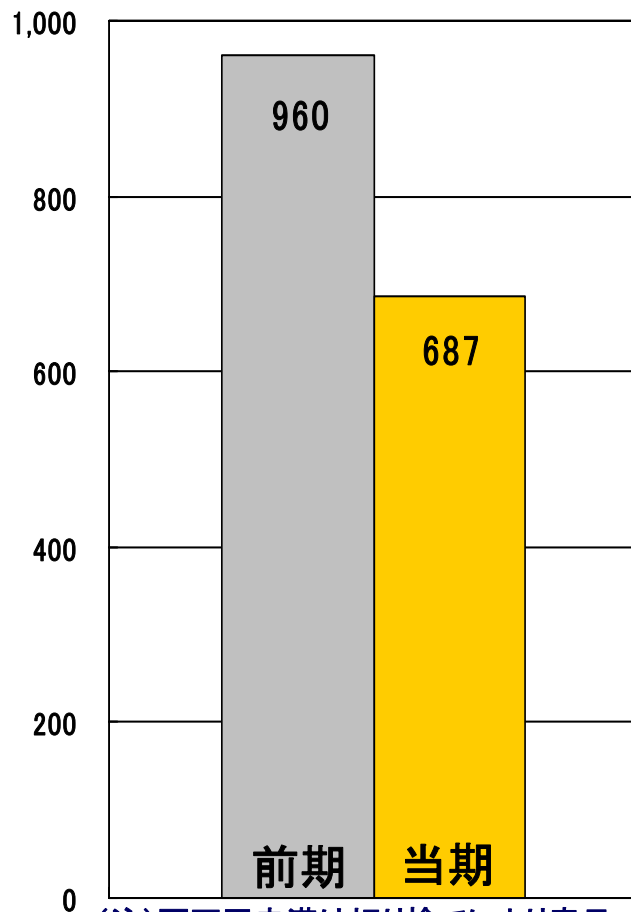
(注)百万円未満は切り捨てにより表示

# 営業利益

687百万円

前期比  $\Delta 273$  (71.6%)

(単位:百万円)



(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## <主な増減要因>

売上総利益の減	$\Delta 258$
販売費及び一般管理費の増 (会計システム等の更新)	+14

# 経常利益／当期純利益

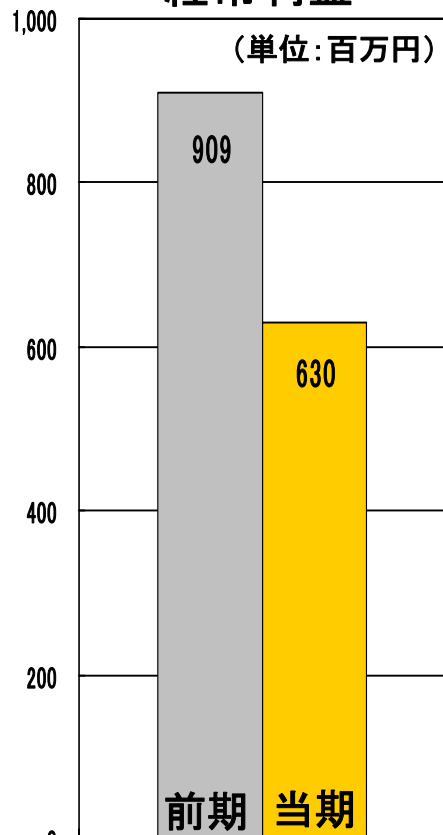
## 経常利益

630 百万円 前期比  $\Delta 279$

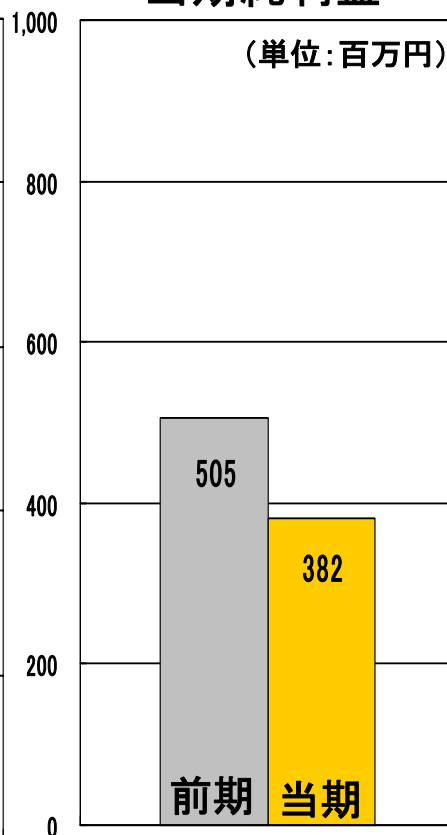
## 当期純利益

382 百万円 前期比  $\Delta 122$

経常利益



当期純利益



(注) 百万円未満は切り捨てにより表示

### < 経常利益の増減要因 >

営業利益の減  $\Delta 273$

営業外費用の増  $\Delta 7$   
(支払利息)

### < 当期純利益の増減要因 >

経常利益の減  $\Delta 279$

特別損失の減  $\Delta 29$   
(固定資産除却損)

法人税等の減  $\Delta 124$

# 2010年3月期 累計業績(計画対比)

(単位:百万円)

	当期計画	当期実績	増 減	
売上高	11,764	11,459	△305	97.4%
営業利益	592	687	94	115.9%
経常利益	523	630	106	120.4%
当期純利益	295	382	87	129.6%

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

# キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

	前 期	当 期	
		金 額	主な増減理由
営業活動によるCF	1,355	973	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前純利益 621</li> <li>・減価償却費 852</li> <li>・売上債権の増加 ▲343</li> <li>・法人税等の支払い ▲397</li> </ul>
投資活動によるCF	▲852	▲1,036	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産取得 ▲1,010</li> </ul>
財務活動によるCF	▲939	653	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期借入 1,400</li> <li>・長期借入金およびリース債務の返済 ▲620</li> <li>・配当金の支払い ▲125</li> </ul>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	▲436	590	
現金及び現金同等物の期末残高	1,529	2,120	

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

当社事業の概要

経営環境

2010年3月期 業績報告(連結)

2011年3月期 通期業績見通し(連結)

## 2011年3月期 通期 業績見通し①

### 売上高(セグメント別)

(単位:百万円)

連結	上期予測	下期予測	通期予測	対前期比 増減
動力事業	2,783	2,678	5,462	△70
整備事業	1,939	2,682	4,621	△121
付帯事業	695	474	1,169	△13
売上高計	5,418	5,834	11,253	△205

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

## 2011年3月期 通期 業績見通し②

(単位:百万円)

	2010年3月期 実績	2011年3月期 予測	対前期比 増減
売上高	11,459	11,253	△205
売上総利益	1,444	1,272	△171
販管費	756	704	△52
営業利益	687	568	△118
営業外損益	▲57	▲66	△9
経常利益	630	501	△128
特別損益	▲8	▲60	△52
税引前当期純利益	621	441	△180
当期純利益	382	252	△129

(注)百万円未満は切り捨てにより表示

本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして  
ありがとうございます。

本日配布しました資料に記載されている将来の業  
績予想は、経営環境の変化などに伴い予想あるいは  
目標対比が変化し得ることにご留意ください。

## お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ



電話: 03-3747-1631

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)